

「2025 県展」の審査結果及び入選作品展について

県展は、兵庫県の芸術文化の振興に資することを目的に、日頃から美術作品の制作活動に励んでいる方を対象とした公募展です。1962年（昭和37年）から開催され、今回で62回目の開催となります。

2025 県展は、絵画、彫刻・立体、工芸、書、写真、デザインの6部門に、合計428点の応募がありました。厳正な審査の結果、入選作品161点、そのうち「県展大賞」などの入賞作43点が決定しました。

つきましては、入選作品展を下記のとおり開催します。

記

1 主催

兵庫県、兵庫県立美術館、神戸新聞社

2 会期等

(1) 会 期 令和7年11月15日（土）～11月30日（日）

(2) 休館日 11月17日（月）、25日（火）

(3) 開館時間 午前10時～午後6時（入場は午後5時30分まで）

最終日の11月30日（日）は午後2時で閉展

（入場は午後1時30分まで）

3 会場

兵庫県立美術館ギャラリー棟3階ギャラリー

4 観覧料

無料

2025県展 審査結果について

1 応募及び入選作品数一覧

部門	応募点数			入選点数		左のうち入賞点数						
	本年度 応募点数	2024年比 増減数	全体に占める 割合(%)	本年度	%	特席	一席	二席	三席	佳作	奨励賞	入賞数
絵画	158	△ 26	36.9%	59	37.3%		1	1	1	5	1	9
彫刻・立体	21	△ 7	4.9%	9	42.9%	1	1	1	1	1		5
工芸	33	△ 10	7.7%	12	36.4%		1	1	1	2	1	6
書	55	△ 22	12.9%	21	38.2%		1	1	1	5	1	9
写真	132	△ 84	30.8%	49	37.1%			1	1	5	1	8
デザイン	29	△ 6	6.8%	11	37.9%		1	1	1	2	1	6
計	428	△ 155	100.0%	161	37.6%	1	5	6	6	20	5	43

特席 県展大賞 副賞50万円
 一席 部門大賞(知事賞) 副賞10万円
 二席 兵庫県立美術館賞 副賞7万円
 三席 神戸新聞社賞 副賞記念品
 佳作
 奨励賞 (公財)伊藤文化財団賞 副賞5万円及び記念品
 特別賞 県民賞(来場者の投票による) 副賞記念品
 ※特席(県展大賞)及び特別賞(県民賞)は全部門を通じて各1名、奨励賞((公財)伊藤文化財団賞)は各部門1名
 ※県展大賞の副賞50万円については、部門大賞の10万円を含む

2 年齢別応募者数一覧

部門	10代	20代	30代	40代	50代	60代以上	計
絵画	5	8	9	6	15	115	158
彫刻・立体	4	2	0	1	2	12	21
工芸	0	5	0	3	4	21	33
書	2	4	4	6	15	24	55
写真	2	1	4	1	7	117	132
デザイン	5	4	4	4	2	10	29
計	18	24	21	21	45	299	428
(%)	4.2%	5.6%	4.9%	4.9%	10.5%	69.9%	
2024年比	23.4%	85.7%	95.5%	58.3%	102.3%	76.5%	71.6%

3 地域別応募者数一覧

部門	神戸	阪神南	阪神北	東播磨	北播磨	中播磨	西播磨	但馬	丹波	淡路	他府県	計
絵画	61	19	11	17	6	21	5	3	2	4	9	158
彫刻・立体	5	5	0	0	1	5	1	1	0	2	1	21
工芸	8	7	2	7	2	3	0	0	0	1	3	33
書	27	5	2	5	0	6	6	0	0	1	3	55
写真	57	22	11	9	16	3	5	1	4	1	3	132
デザイン	16	5	1	0	0	4	0	2	0	0	1	29
計	174	63	27	38	25	42	17	7	6	9	20	428
(%)	40.7%	14.7%	6.3%	8.9%	5.8%	9.8%	4.0%	1.6%	1.4%	2.1%	4.7%	
2024年比	70.7%	94.0%	65.9%	62.3%	53.2%	66.7%	58.6%	116.7%	40.0%	90.0%	153.8%	71.6%

絵画部門（応募数158、入選数59）

部門	賞	作品名	名前	居住地
絵画	一席 部門大賞	imagine	たかき なつな	加古川市
絵画	二席 兵庫県立美術館賞	存在意義	長尾 博昭	神戸市北区
絵画	三席 神戸新聞社賞	流転	長谷川 禎一	多可郡多可町
絵画	奨励賞 (公財)伊藤文化財団賞	口紅	吉川 弥音	姫路市
絵画	佳作	名前の無い森	浅田 祐加	神戸市西区
絵画	佳作	川原を望む	小山 彰典	三田市
絵画	佳作	いきもの	戸田 新一郎	神戸市灘区
絵画	佳作	1971	野淵 博	滋賀県大津市
絵画	佳作	ピエロのよっちゃん	澤田 善弘	姫路市
絵画	入選	Greek 村の祈り	阿部 道子	姫路市
絵画	入選	生命の木	中谷 アキ	姫路市
絵画	入選	賢者の石が失われた須磨クジラを甦らせる	岩崎 ナギ	神戸市西区
絵画	入選	安らぎ	山本 恵子	姫路市
絵画	入選	ぼくらはみんな生きている	三田 裕巳	西宮市
絵画	入選	美術教師としての自画像	渋谷 健	加古川市
絵画	入選	IDOL A	満田 知美	加古川市
絵画	入選	春愁	藤井 恭子	神戸市北区
絵画	入選	my fantasy world II	竹本 裕子	揖保郡太子町
絵画	入選	真剣に	池田 瑞子	神戸市灘区
絵画	入選	逃げた時間	越路 潤	西宮市
絵画	入選	癒しの地	森川 正博	神戸市北区
絵画	入選	おふどう	山本 真聡	徳島県鳴門市
絵画	入選	Dragon Palace	福田 秀行	加東市
絵画	入選	彼岸	藤村 温子	姫路市
絵画	入選	片付けの時間	臼杵 寿子	神戸市兵庫区
絵画	入選	124	河西 厚子	伊丹市
絵画	入選	旅する朧月(1)	山本 俊喜	神戸市垂水区
絵画	入選	天使の日常	隠岐 陽子	姫路市
絵画	入選	光芒／祈りのさきに	榎原 健一	西宮市
絵画	入選	ボクたちは生きていた。人間と出会うまでは一。	武内 司郎	尼崎市
絵画	入選	もののあはれヲ知ル龍	TakA(望月たか)	西宮市
絵画	入選	傘寿の自画像	田中 耕治	川辺郡猪名川町
絵画	入選	バオバブの木がある森	三宅 常夫	神戸市灘区
絵画	入選	日づけのない記憶	高萩 典子	神戸市中央区
絵画	入選	bokuとあそんで	はた けいこ	揖保郡太子町
絵画	入選	地下街	奥村 誠	西宮市
絵画	入選	蘇る春	石井 恵	加古川市
絵画	入選	プリミティブアート	藤井 まゆみ	姫路市
絵画	入選	木もれ日	渡辺 良子	川西市
絵画	入選	今年の情景2025-3(追憶)	永原 清史	神戸市中央区
絵画	入選	construction2	水本 智子	神戸市垂水区
絵画	入選	優	森本 小夜子	神戸市西区
絵画	入選	光芒II	小脇 千賀子	伊丹市
絵画	入選	月光一水辺	寶山 和久	赤穂市

部門	賞	作品名	名前	居住地
絵画	入選	夕陽の越木岩坂	清瀬 五郎	西宮市
絵画	入選	朝	桃尾 良継	神戸市西区
絵画	入選	春日和	岡野 壮男	高砂市
絵画	入選	日めくり日記	山本 文昭	川辺郡猪名川町
絵画	入選	猫姫と13匹の猫	蜜山 虎男	神戸市須磨区
絵画	入選	温室	内海 ひさや	姫路市
絵画	入選	想	船越 和子	神戸市北区
絵画	入選	さえずりの樹	金丸 英子	三木市
絵画	入選	細工の宮	堀 敏文	姫路市
絵画	入選	干支乱世	風呂本 和彦	神戸市灘区
絵画	入選	播磨工業地帯	富士谷 淳	たつの市
絵画	入選	けん・けん・パー	丸橋 重美	西宮市
絵画	入選	夢の中へ	吉都紀 和美	神戸市須磨区
絵画	入選	Kaseki	小谷 晋	神戸市須磨区
絵画	入選	悠久の時を超えて	田中 紀子	姫路市

彫刻・立体部門（応募数21、入選数9）

部門	賞	作品名	名前	居住地
彫刻・立体 特席 県展大賞 一席 部門大賞（知事賞）		邯鄲の夢	安田 正裕	西宮市
彫刻・立体 二席	兵庫県立美術館賞	自然伝承	小岩 芽生	神崎郡市川町
彫刻・立体 三席	神戸新聞社賞	ここにいた ここにいる	坂口 英幸	尼崎市
彫刻・立体 佳作		map 刻と共に	門脇 済美	神戸市垂水区
彫刻・立体 入選		めぐる地空エネルギー/不安な不屈	橋本 健治	神戸市東灘区
彫刻・立体 入選		二畳（江戸間の八咫鳥）	TakA(望月たか)	西宮市
彫刻・立体 入選		白亜紀BOX	舛賀 悠人	姫路市
彫刻・立体 入選		大地の恵み	田村 早織	朝来市
彫刻・立体 入選		明日へ	片山 保幸	洲本市

工芸部門（応募数33、入選数12）

部門	賞	作品名	名前	居住地
工芸	一席 部門大賞	煌めきの群生	橋本 恵弥	加古川市
工芸	二席 兵庫県立美術館賞	或る世界の美術品についての記録	村田 亮	神戸市須磨区
工芸	三席 神戸新聞社賞	萌えいずる	谷 健三	姫路市
工芸	奨励賞 (公財)伊藤文化財団賞	tiny days	柳生 梨音	京都府京都市
工芸	佳作	素音	西山 猛	芦屋市
工芸	佳作	Autumn day	河田 祐子	三田市
工芸	入選	六甲牧場の羊	村田 実智	明石市
工芸	入選	my sweet nikibi	清次 千晴	小野市
工芸	入選	ひかりをみる	丹生 あさ	宝塚市
工芸	入選	輪る 廻る 再び はじまる	佐野 アラオ	尼崎市
工芸	入選	丹波布手織草木染帯地	田中 萬里子	高砂市
工芸	入選	練り込み”輪廻転生”	中村 可南子	神戸市須磨区

書部門（応募数55、入選数21）

部門	賞	作品名	名前	居住地
書	一席 部門大賞	李白詩	山下 康楊	大阪府八尾市
書	二席 兵庫県立美術館賞	王漁洋詩	藤井 子凰	姫路市
書	三席 神戸新聞社賞	花橘	森岡 郁恵	姫路市
書	奨励賞 (公財)伊藤文化財団賞	姚汝循詩	白石 滄晨	高砂市
書	佳作	王漁洋詩	谷 詔子	姫路市
書	佳作	釋古梁詩二首	高橋 香華	川西市
書	佳作	陰翳禮讃	戸出 智子	神戸市灘区
書	佳作	范仲淹詩	角 宗一郎	神戸市北区
書	佳作	故城道中同元東巖賦	松井 英樹	神戸市垂水区
書	入選	白楽天詩	赤木 鶴雲	高砂市
書	入選	張杉詩	白壁 江美子	神戸市垂水区
書	入選	司空圖詩	中島 葉舟	神戸市中央区
書	入選	車轍馬蹟	藤田 万里子	神戸市北区
書	入選	平行	西村 直子	神戸市東灘区
書	入選	面無見膚	浅良 朱華	明石市
書	入選	高青邱の詩	河野 清葉	神戸市北区
書	入選	徐凝詩	吉田 早葉	西宮市
書	入選	高青邱詩	中園 丁景	神戸市兵庫区
書	入選	面影	内波 薫	赤穂市
書	入選	漢詩	山本 彩華	埼玉県蕨市
書	入選	月夜見梅花	宮本 華逕	相生市

写真部門（応募数132、入選数49）

部門	賞	作品名	名前	居住地
写真	二席 兵庫県立美術館賞	Falls	藤井 英雄	西宮市
写真	三席 神戸新聞社賞	雨の雫	増田 茂	西宮市
写真	奨励賞 (公財)伊藤文化財団賞	Parallel	丸喜 俊亮	大阪府東大阪市
写真	佳作	急降下	清水 和義	三田市
写真	佳作	魅惑	五百蔵 二郎	小野市
写真	佳作	仲良く散歩	高橋 三吉	加古川市
写真	佳作	未確認飛行物体	荒木 郁子	神戸市北区
写真	佳作	再会	村上 元	神戸市中央区
写真	入選	栄枯盛衰	水田 一久	宍粟市
写真	入選	霧立つ朝 川～海	仙崎 幸子	神戸市中央区
写真	入選	Y氏のY字路2025	Chris 園田	西脇市
写真	入選	Timeslip	阿江 邦夫	西脇市
写真	入選	急ぎ足	伊藤 忠	神戸市中央区
写真	入選	Burning Down The House	三上 健二郎	芦屋市
写真	入選	変わらぬ愛を誓う	井上 広一	小野市
写真	入選	樹が映える照明器	日夏 智子	大阪府豊中市
写真	入選	幽光	山添 真理子	西宮市
写真	入選	山肌	福田 登史雄	西脇市
写真	入選	葉脈の記憶36	加藤 昭代	三田市
写真	入選	a i	信部 加織	豊岡市
写真	入選	風の道	中井 正和	神戸市長田区
写真	入選	追儼	西澤 忠雄	西宮市
写真	入選	不夜城の街	佐々 義雄	西宮市
写真	入選	赤いボール	山本 久代	神戸市長田区
写真	入選	少年の日	木内 良之	神戸市中央区
写真	入選	ある光る物体	遠藤 堅衛	神戸市須磨区
写真	入選	街角	波多野 博	三田市
写真	入選	田圃キャンパス	西村 貴久世	神戸市中央区
写真	入選	トレンドの街	三宅 美佐子	神戸市垂水区
写真	入選	冬の蓮華	山本 雅夫	神戸市長田区
写真	入選	6年目の祥月命日	SATOKO	神戸市東灘区
写真	入選	日本の原風景	土居 辰彦 (ばろ)	加古川市
写真	入選	或る日の二人	タサカトモナカ	神戸市長田区
写真	入選	代謝の果ての	長坂 寿美子	神戸市兵庫区
写真	入選	靴底の出家	溝口 理香	西宮市
写真	入選	光と影の探索	荒岡 浩志	神戸市長田区
写真	入選	Face	荒木 透	西宮市
写真	入選	今宵コンコン	白川 律子	西宮市
写真	入選	ノスタルジー	納庄 喜一	三木市
写真	入選	路地小景	坪内 太郎	神戸市垂水区
写真	入選	バラ群舞	中野 寛司	神戸市中央区
写真	入選	色彩	石場 史子	神戸市北区
写真	入選	華	山口 政子	たつの市
写真	入選	アスリート	上村 隆夫	神戸市中央区
写真	入選	泡にまみれて	林 和枝	丹波市
写真	入選	宇宙ブランコ	石川 信彦	神戸市須磨区
写真	入選	山嶺湧雲	橋本 榮治	西宮市
写真	入選	春の漁港	村上 よしみ	西脇市
写真	入選	再開発の街角	大國 由紀子	明石市

デザイン部門（応募数29、入選数11）

部門	賞	作品名	名前	居住地
デザイン 一席	部門大賞	命=つたえる×つながる×つづける	亀井 常行	神戸市西区
デザイン 二席	兵庫県立美術館賞	震災後の夢傷	横山 資治	芦屋市
デザイン 三席	神戸新聞社賞	こころ	はにおか ひさこ	神戸市北区
デザイン 奨励賞	(公財)伊藤文化財団賞	溶け合う	若林 いぶき	大阪府富田林市
デザイン 佳作		樹木のチカラー 蓄える・整える・育む	土井 淳	神戸市垂水区
デザイン 佳作		ワクワクでドキドキで	しらいよう	神戸市兵庫区
デザイン 入選		NO WAR	岡 己太郎	豊岡市
デザイン 入選		PARADE	立脇 鈴	豊岡市
デザイン 入選		More Air	佐藤 美夫	神戸市長田区
デザイン 入選		MINATO・KOBЕ	福居 善之 (Yoshi-f-Japan)	神戸市灘区
デザイン 入選		五国	風呂本 和彦	神戸市灘区

【総評】

素直に描きたい気持ちを、表現技法をともなわせて描いた作品が多い。若い世代が育っているのを感じると同時に、70歳代、80歳代のパワーも感じた。抽象は少ないが、一昔前のような自然主義的なものも少ない。情報を受け入れる仕方もかわってきているからか、額の中だけでないそうした日常の変化のようなものを全体から感じた。

【一席 部門大賞（知事賞）】

画面の構成が洒落ている。空気感も感じられ、多様な色が使われて、描かれた女性の気持ちが広がっていく感じがいい。頭部と左肩の続き具合が有機的でないのが気になるが、それが良さともいえる。仕上がりが切っていない感じがするの味であり、逆にここで筆をおく勇気も感じた。

【二席 兵庫県立美術館賞】

植物なのか山なのかと、最初見たときは迷うが、とにかく色彩と構成が目に入ってくる。抽象的であるのもよい。山水画からはじめて独自に様式化を進めて新しいスタイルに行きついた。技法の工夫もされていると見受けられる。

【三席 神戸新聞社賞】

風景なのか動物なのか、焦点が定まらずあいまいなところが面白い。風景だとしても流動的で、ひょっとして、水の中かもしれないなど、イメージがダブルやトリプルに展開していく。焦点はないが、ところどころに白い線がアクセントとして目に入ってくるのも心地よい。

【奨励賞（公財）伊藤文化財団賞】

色ににがり気味なのが作者の持ち味だろうか。日常というか生活の匂いがする。絵の切り取り方はラフで、筆のおき方などもよい意味でのゆるさがあり、それが詩的な気分につながっている。

【総評】

兵庫県展の彫刻・立体部門は他の公募展と比べて出品作のレベルが高い。工芸と異なるジャンルであることがしっかり意識されている。大きい作品は難しいものだが、出品数が多くてよい傾向だ。だが、小さくてもよいものはよいことももっと知られてほしい。彫刻のよさは作品の周囲の空間を含めたものなので、小さくても作品が強ければ大きな空間を支配することができる。今回は、菓子箱や布など固定観念に捕らわれない材料を用いて作りたいものを作っているのがよかった。若い方の参加が少ないのもっと挑戦してほしい。

【一席 部門大賞（知事賞）】

テーマ、構成、素材の選び方全てがよい。作品が放つ世界観ができあがっているので、前後のストーリーも見える。三次元の次の四次元まで増えているようで、これだけ強いと綺麗な照明などの展示環境が整ってなくてもオーラをまとう。木や金属というありがちな材料ではない素材の選び方や、所々に色を残すのも評価できる。耐性が無い素材をフィギュアとはまた異なる造形に利用している。粘土を使ってもうまくいくのでは。

【二席 兵庫県立美術館賞】

作者の思いが強くのった丁寧な仕事である。木をここまで時間をかけて彫り込む忍耐力や、狐に苔をつけるといった発想はなかなか無く、土台部分の穴のあけ方も面白いなどいろんな工夫が施されている。作者の作品への愛情のかけ方と作品で示されている動物の親子愛がよく合っており絵本のような。このまま丁寧な思いを持ち続けて制作を続けていけばとても良い彫刻家になるのでは。仕上げに機械を使っているようでもったいない。鑿など手仕事を貫くともっとよくなりそうだ。

【三席 神戸新聞社賞】

溶接に関する技術力が高く、それがよく生かされている。特に人物のモデリングに顕著で、頭部などはすごい。自分が思うような造形を可能にする力があって安心して作品を見ることができる。また、彫刻の敵は重力と素材であり、素材が強いとどうしてもその特性に頼りがちになるが、この作品は負けていない。自分にとってしんどいことを選んでいる。このように自立にこだわるだけでも彫刻はもっとよくなる。

【奨励賞（公財）伊藤文化財団賞】

※該当なし

【総評】

歴史に則った作品からファインアートまで幅広い作品が出品されており有意義であった。技術的な面では発展途上であっても、創意については発想の豊かさが感じられ、兵庫県の多様性を見ることができた。

【一席 部門大賞（知事賞）】

単純な造形の三角錐の大小を組み合わせながら、ガラスの特性を十全に生かした美しい作品。工業用の板ガラスの間に強化ガラスを挟んで割る積層ガラスの技術が用いられており、難しい仕事を丁寧に処理している。透明感と多層構造が折りなす光が「煌めきの群生」というタイトルにマッチしている。審査員の満場一致で高い評価を得た。

【二席 兵庫県立美術館賞】

5点1組で構成された陶芸作品で、個々はテクスチャーや色が異なるので一見奇抜な印象を受けるが、造形的にはストーリー性や共通性を感じる。「或る世界の美術品についての記憶」という心象的なタイトルも挑戦的で面白く、鑑賞者が思索を巡らすことができる。県展の工芸部門における創作の方向性を示す1点。

【三席 神戸新聞社賞】

陶芸作品として基本に則っており安定感がある。見込み、側面いずれから見ても均整がとれており、高台がない平らな底面から伸びる植物の図柄は、生命の萌えいずる感じがタイトルと整合性がとれている。陶芸として高い水準の受賞にふさわしい作。

【奨励賞（公財）伊藤文化財団賞】

連結したリングの素材が何なのか、いかなる焼成法を用いたかについて注目が集まった。現代は様々な素材や特徴を持つ粘土があり、成長過程にある若い世代が新たな素材を用いて工芸作品に取り組むことは好ましい。

【総評】

みな堅実で完成度が高く、長年取り組んできた技術と表現が存分に披露されている。一方で、本文の仕上がりに対して、落款の練度が低い作品が多い。落款を含めた全体に意識を向けた作品制作に期待したい。

本年も漢字（特に行草書）の出品が多く、仮名や前衛が少ない点が気がりである。出品者には師風とは異なる「古典」との出会いや対話を大切にしてほしい。

【一席 部門大賞（知事賞）】

オーソドックスであり、かつあたたかさや柔らかさのある作品。自然な部分と工夫された部分のバランスがよく、文字の大と小、広いと狭いなど、全体でそれぞれの文字がきちんと役割を果たしている。

【二席 兵庫県立美術館賞】

線の動きと呼吸の長さが魅力的で、縦の流れも感じられる。文字の中の白を生かしつつ動きが大きくゆったりと、墨量も十分である。文字を書く楽しさが伝わってくる健康的な作品であった。

【三席 神戸新聞社賞】

大きな作品の見せどころである表現のパターンをよく取得した作品である。複数の行の呼応や文字の起伏、緩急を生かしながら、変化に富んだ作品に仕上がっている。

【奨励賞（公財）伊藤文化財団賞】

文字を接近させて行間の白をみせ、墨もしっかりと入った優品である。若さとエネルギー溢れる作品であり、今後が期待される奨励賞にふさわしい作と言えるだろう。

【総評】

風景や自然を撮影した作品が減った反面、創意工夫が感じられた。デジタルをうまく使った作品も多くなった。レベルは高い一方で、突出した作品はないとも言える。小品が多い印象であるが、作品によって適切なサイズ、額装の工夫なども含め、視覚的にどういう魅力を与えられるかを考えてほしい。

【一席 部門大賞（知事賞）】

※該当なし

【二席 兵庫県立美術館賞】

色彩ではなく明暗の効果により、暗い中に水を浮かび上がらせている。風景写真だが、単に綺麗な場所を綺麗に撮るのではなく、作者の感じたものが、モノクロならではの良さを生かしてうまく表現されている。4点組の写真それぞれに構図が良く、組作品としても効果的である。

【三席 神戸新聞社賞】

夜の雨による光の反射、その鮮やかな色彩が、説明的になりすぎず、抽象的、造形的にうまく作品にまとめられている。3点組のそれぞれにスナップ的であったり、デザイン的であったり、違ったとらえ方でヴァリエーションに富み、目を引いた。タイトルは直接的ではないほうが、見る人の想像が広がるかもしれない。

【奨励賞（公財）伊藤文化財団賞】

真っ暗な中に街灯の光のコントラストが力強く、目を引かれる作品。撮る人が光に向かって動いているような臨場感も感じさせる。タイトルの「パラレル」は、構図の縦横の線の組み合わせにも、自分の世界と夜の世界との「パラレル」にもとれるが、特定せず見る人が世界を広げられる点も含めて良いのでは。

【総評】

作品から受けるメッセージが明快で、力作が多く、見ごたえのある審査となった。例年に比べ、「兵庫」など地域を題材とする作品が減り、戦争や環境問題、多様性といった今日的課題を扱うものが増えた印象。社会的な問題に向き合う姿勢は好ましいが、自分なりの問題の切り取り方や、そこから未来をどう作っていくのかという視点も加わるとさらに良い。デザインのアウトプットが平面表現に偏っているので、立体的な構成や暮らしに関わるプロダクトなど、ビジュアル表現にとどまらないアプローチにも挑戦してほしい。

【一席 部門大賞（知事賞）】

一見すると魅力的な少女の姿に目を引かれるが、原爆という重いテーマを扱っており、その意外性が強い印象を残す。前景と背景のモチーフのバランスが良く、画面としての完成度も高い。額装はデザイン部門では珍しいタイプだが、画面と調和している。作品の持つ時間性が背景の繊細なマチエールに表れており、「命をつなぐ」というメッセージが伝わってくる。

【二席 兵庫県立美術館賞】

高度なテクニックを用いているわけではないが、各要素がバランス良く配置されており、色彩感覚やセンスの良さが光る。ディティールの面白さがあり、テクスチャー全体を見て楽しめる一方で、荒々しい背景が震災の記憶を想起させる。表現に真実味があり、見るほどに深く考えさせられる作品。

【三席 神戸新聞社賞】

書として見ても巧みで、墨の濃淡の使い分けや紙の選択を含め、高い完成度を備えている。通常、デザインは明確で前向きなメッセージを考えがちだが、本作はそうした窮屈さを感じさせず、広がりをもった切り口が面白い。見る人の心の中を映すようでもあり、モチーフが「心」という文字のかたちに見えてくる点も興味深い。

【奨励賞（公財）伊藤文化財団賞】

音楽という見えないものを可視化することに成功しており、作者のねらいがストレートに伝わってくる。色彩が整理されており、全体のバランスも良い。シアンの上にマゼンタを投げつけたような筆致が、ピアノの鍵盤を叩く人物の動作と響き合い、空気感をうまく表現している。

2025 県展 特席 県展大賞 受賞作品



安田 正裕 《邯鄲の夢》

2025 県展 一席 部門大賞（知事賞） 受賞作品

【絵画部門】



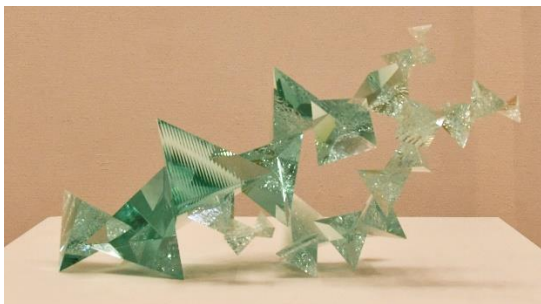
たかき なつな 《imagine》

【彫刻・立体部門】



安田 正裕 《邯鄲の夢》

【工芸部門】



橋本 恵弥 《煌めきの群生》

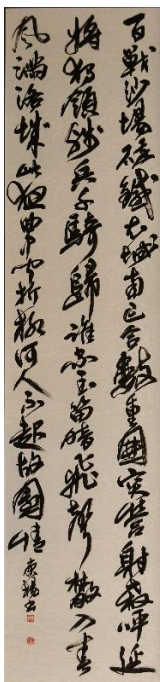
【デザイン部門】



亀井 常行

《命=つたえる×つながる×つづける》

【書部門】



山下 康楊 《李白詩》